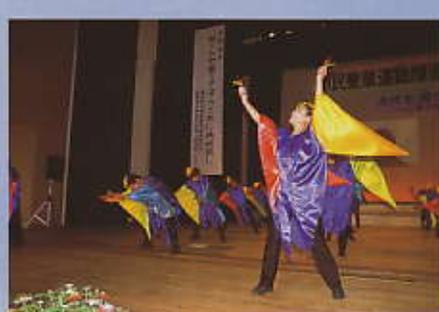




心豊かなまちづくりをめざして
市民憲章運動推進第37回全国大会
秋田・秋田市





「次代を担う子らと共に心豊かなまちづくり」を大会テーマにした市民憲章第三十七回全国大会が、昨年の十月十七日から十九日までの三日間わたり、秋田市の秋田県民会館で、北は北海道釧路市から、南は沖縄県石垣市まで総勢千二百人の市民憲章運動関係者の参加を得て開催された。大会は昨年度に制定された全国市民憲章運動連絡協議会唱和文を参加者全員で朗読。その後、全国市民憲章推進協議会の岡部勇作会長があいさつに立ち、市民憲章の実現に向けて全国の市町村民の実践活動の必要性を訴えた。引き続き、来賓等のあいさつに続き、事例発表や記念講演が行なわれた。

事例発表では、地元秋田市の二つの活動が報告された。

一つは、周囲を山林と農地に囲まれた秋田市立太平中学校二年生の面々が、過疎化や高齢化の中、次代の担い手の自覚と地域への思いから、地域の現状を知るため、田植えなどの農業体験、地域調査学習、職場体験、地域のクリーンアップなどの活動を行なうなかで、地域の良さを活かした活性化策を探る活動を報告した。

もう一つは、秋田市の中心部にある明徳地区市民憲章推進協議会の活動。明徳地区は、秋田駅近くの大学、病院、美術館などが立ち並ぶ秋田市の中心部。かつて繁華街として隆盛を誇っていたが、





近年、郊外に大型店舗などの進出により、閑散としてきた。そこで、明德地区の市民憲章協議会では、「地域をにぎやかにしたい」と考え、祭りを企画。最初は「なぜ一地区でやるのか」と周囲の反対をうけつつも、秋田大学をはじめ、地区の学校等に協力を呼びかけ、「ヤートセ秋田祭」を平成十年に開催した。ヤートセとは秋田音頭の掛け声をとって命名したものだ。この祭では、参加したグループが、自分たちが独自に振りつけた踊りや歌を披露し、それを競うというもの。明德小学校の子どもたちの「明德KIDS」をはじめ、高等学校や大学、女性たちがチームを結成し参加し、現在では、参加チームも二十二チームに、観客数も一万人を超え、すっかり秋田市の代表的な祭として定着したというもの。さらにここで結成されたグループは祭りの時だけでなく、施設巡回やほかのイベントにも参加するなどの広がりをみせていることも報告された。当日の舞台では、「明德KIDS」や「婦人方で組織されている「レインボー明德」の踊りも披露され、参加者の歓声を浴びた。

なお、次年度の全国大会は、沖縄県石垣市で開催されることが、同時に開催された総会で決定したが、本大会には、石垣市から大濱石垣市長をはじめ総勢二十名の市民憲章関係者も参加し、大会を盛り上げた。

